

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	H.22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成22年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれ、ゆったりとした生活ができるような支援を心がけている。地元職員が長期勤務しており、田舎ならではのメニューを取り入れ 季節感のある食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な自然の中、日向ぼっこをしたり、又は近所を散歩しながら四季の変化を感じながら、利用者はゆったりと過ごしている。地域の人にも来訪することが多く、利用者・家族を交えて季節ごとのおやつ作りに参加している。買物は日常的に行ない、季節ごとの行事を設け外出する機会を作り気分転換を図っている。ホームの消防訓練には、消防団や区長の参加もあり協力的である。今後も目標に掲げている、終末期になった場合のホームでの方向性の確認の徹底を全職員に図ることを望む。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に貼り、職員は各自理念を確認し、実践に繋げている。	ミーティングなどで話したり、気が付いたときには職員に伝えて、意識付けをしている。	新人職員にも理念の周知をして、ケアの実践につなげて欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけて時には近隣の方に挨拶したり、特別な行事が行われる時には声掛けしている。又、合同の消防訓練も実施している。	地元の利用者が多くなったので、地域の人々が訪ねてくる機会が多くなった。地域のお祭りやイベント行事に参加したり、近くのカラオケ喫茶にも定期的に出かけている。また、地域との合同の消防訓練で、ホームの避難場所も決めてもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として中々地域貢献は出来ていないが、ボランティアの方々の披露の場として提供し、共に楽しみ認知証の方々の理解等をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの情報を開示し、要望や意見等を聞いて、サービスの向上に活かすようにしている。	運営推進会議には区長の参加もあり、災害のときの連絡網に区長の名前も入れることを承諾してもらうなど会議を通して良い関係ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター等とは常に情報交換を行っており、また情報が入り次第教えて頂くようにしている。	市の担当者とは日頃から連絡を取り、情報交換を行なっている。介護相談員が毎月訪問してきて、介護相談員活動報告書を市へ提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員がビデオ研修を通し把握し理解しており、拘束のないよう取り組んでいる。	身体拘束についての研修は、法人内研修の中に入れており全職員が受けている。玄関の鍵は空いており、各ユニット間の鍵も空いており、利用者の行き来もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回のビデオ研修を通し学ぶ機会があり、職員の意識を高めると共に、見過ごす事のないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通じて学ぶ機会を持ち、情報が入った際にはミーティングで共有出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者が契約書の全てを読み上げ家族の同意の上で契約を結んでいる。また不安や疑問に関してはその都度説明し理解して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは常にコミュニケーションを図り意見、要望を聞きやすいよう努めている。また、苦情、意見等に対しては誠意をもって対応している。	家族会を新たに開催した。家族会のときに運動会も行ない、利用者の楽しそうな顔を見ることができたと家族から好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダーミーティングなど、会議を開催し、職員の意見提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を月1回行ない、各館の統一を図っている。館長を交えて会議を行ない、そこで出た意見などは館長より会社に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力に対する報酬や手当の改善、また、社員旅行、忘年祭など、職員への向上へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定に職員採用時から、研修計画が記されており、採用時研修、管理者研修、実践者研修、院内学会など継続的な研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列グループホーム職員と研修と一緒にいたり、施設を訪問したりして意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には面接やホームの見学をして頂き、不安な困っていることについての聞き取り等を行い安心できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事や不安な事、要望等に対してじっくりと話を聞き、出来る限りの事をさせて頂くことを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや必要としていることの支援は相談を繰り返しながらサービスに近づくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを知ること努め、利用者は家族の一員という思いで、出来る方には茶碗拭き等してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを伝えて家族との信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診や地域のカラオケ喫茶や美容院に出かけたりしている。	利用者が地域の人が多いため、地元の知り合いの面会は多い。訪ねてきた人が複数の利用者の知り合いの場合もある。今まで通っていた理美容院へも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが起こりそうなときは、職員が間に入って話を聞くように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対してサービスの提供はしていないが、相談があれば対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意志を受け止めて安心して楽しく生活ができるように努めている。	利用者の日常生活の中でいつもと違う行動や表情を察したり、日常の会話や利用者同士の会話の中から情報を貰うこともあり希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子を面接時に家族や本人に聞き、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握し、残存機能を引き出すようなサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、他の職員と相談しながら介護計画を作成している。	ケアプランは1年毎の更新となっているが6ヶ月毎の更新に変更予定である。モニタリングは3ヶ月毎に行い評価・見直しを行い、介護計画を作成している。いずれも、利用者、家族、医師、職員と話し合い現状に即した計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の健康チェックや食事、夜間の様子を介護記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設では通所、ショートステイ等のサービスは行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜や紅葉の時期には見学に出かけて、暖かい日には、散歩をしながら四季の移り変わりを感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院と地域の医師との連携が確立されている。往診をお願いできるドクターもおり、気軽に相談でき、適切な医療も受けられる。	利用者が入居前の主治医とホームかかりつけ医が同じで、往診をしてもらっている人はいる。入居前の病院に家族の付き添いで通院している人もいるが、かかりつけ医との連携はできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護職員は配置されていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には頻回に管理者が見舞うようにし、医師や家族と話をし、状況などを把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった方にとって何が一番良いのか家族や医師と話し合い、方針を決めている。	重度化や終末期についての方針は入居時に家族には説明している。ホームとして利用者や家族の意向を踏まえ何が一番良いのか具体的な話し合いをする機会を持ち職員間で共有出来る様に支援する予定である。	利用者一人ひとり、状態も違う事もあり、利用者、家族、医師、職員と話し合いを密にとり職員が一丸となって利用者の一番良い方法に向けた支援が出来る事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、基本の蘇生法や初期応急手当での訓練を全員行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練をしている。	年4回行っている。その内2回は夜間想定での避難訓練をしている。職員は慌てず安全に利用者を避難出来る様になってきている。地域の区長が緊急時の連絡先に入り、地域との協力体制ができつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の様子や思いを伝えて家族との信頼関係を築いている。誇りやプライバシーを損ねないように全職員が意識し、記録や個人情報には外部に漏らさないよう徹底を図っている。	日常生活の中で利用者に対して言葉使いに気をつけている。意思疎通が困難な人でも表情を察し人格を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に声かけをし、本人の意向を聞くようにしている。本人の行動を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や趣味など、一人ひとりの状態や思いを配慮しながら、気持ちを尊重して、出来るだけそうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族対応で美容院に行く方も見える。地域の美容師に定期的に依頼し、本人の希望を聞いてカットして下さる。男性利用者も毎日の髭剃りの声かけをし、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などは、本人の希望するメニューを聞き、満足して頂けるようにしている。食事の準備は好まれないが、食器拭き等は皆さん積極的にして下さっている。	食事のメニューは利用者の希望を取り入れている。調理補助、配膳、後片付けなど、利用者の出来る範囲で行ってもらおう場面作りには工夫している。また、季節を感じる柏餅などのおやつは職員と一緒に作っており、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食など平均に食べられるよう声かけしている。水分補強も常に声かけし、摂取して頂いている。また夜間希望される方に、寝る前に準備をし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、声かけをし、本人ができない方は、支援を行っている。義歯の方の洗浄の支援も行い、毎週月曜日は、夜間に義歯を預かり、ポリデントの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握して対応を行っている。また、定期的に声かけを行い、誘導している。	日常生活の中で椅子に座っている時に急に立とうとする行動や、その他利用者一人ひとりの観察をしている。出来るだけ失禁を防ぐよう早めに声をかけて、自立に向け支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無の確認、必要に応じて服薬を行いコントロールしている。また、おやつ時毎日、ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調に合わせて無理のない範囲でゆつくりのんびり入浴して頂けるようにしている。また、自宅と同じように一人ずつ入浴をし(職員一人対応)順番に入って頂く。入居の際に1日おきの入浴の支援について、ご家族より承諾を得ている。	入浴は13時頃から、ゆったりと入ってもらっている。仲の良い人同士一緒に入る時もあり、現在入浴を嫌がる人はいない。週3回は入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない範囲で昼間の活動を行い、昼夜逆転のないように努めている。また本人の体調を見て、居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し、一人ひとりが内服している薬を把握し対応している。病状に変化のある時は、詳細記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でいろいろなお手伝い(洗濯物たたみなど)をして頂いている。またそれぞれの趣味や生活を把握し、余暇の時間に行って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事を設け、外出する機会を作っている。また、天気の良い日は外に出て散歩に出かけたり、日光浴を行っている。また職員と共に買い物に出かけ、気分転換を図っている。(可能な方)	近隣の散歩は毎日行っている。ホーム前の敷地が広くベンチに座り日光浴や畑の草むしりをする人やまた、水曜日は食材の買い物に同行する人もいる。季節の外出行事で、花見や紅葉などに出かける時もある。	散歩は同じコースが多く、気分転換にもう少し工夫をしてはどうか検討を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預り、管理しているが、必要な物があれば職員が代行し買い物を行っている。また、可能であれば一緒に店に出かけ、外出して買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、本人に繋げたりしている。(職員が入る)手紙も本人宛の物があれば渡し、また書いた手紙については預かって代行で提出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎日掃除を行い、清潔、安全快適に過ごして頂けるよう努めている。また、季節に応じて花を飾ったり利用者の作った季節感のある貼り絵等を掲示している。	玄関には柿など季節を感じる物がそっと置いてある。トイレ、浴室は清潔である。居間には大きなコタツやソファがあり、利用者は何処にいても居心地の良い場所となっている。また、利用者と職員が一緒に作った切り絵や、日常の暮らし振りがわかる写真も掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでもそれぞれが過ごしやすいよう配慮している。また出来るだけ気の合う方同士が同じテーブルになるように考え、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物(布団、タンス等)を持参して頂き、住み慣れた環境に近づけるよう努めている。	居室は明るく清潔である。タンス、テレビ、写真など置いてあり、調査日に利用者が居室でのんびり寛いでいる様子が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに合った家具(ベッドなど)の配置にし、出来るだけ自立した生活がおくれるよう支援している。また居室内も安全に過ごせるよう環境整備に努める。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2376200172
事業所名	グループホーム稲武の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	地域の利用者が増えているため親戚の人が面会にくることが多く、複数の利用者の知り合いである場合もある。地元のカラオケ喫茶へ定期的に出かけ、利用者の楽しみの一つになっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議には区長も参加してもらい、災害のときの連絡網に区長の名前も加わえることを承諾してもらった。また、他の役員にも区長より知らせてもらった。運営推進会議には包括支援センター職員の参加もあるので、介護についての的確なアドバイスももらえている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	運営推進会議に毎回包括支援センター職員の参加があるので、情報の交換はできており、包括支援センターより利用者の紹介もある。市の介護相談員の訪問が毎月あり、意見交換記録表を書いてもらい、それを職員は必ず目を通して見る。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族会を開催し、家族からも好評を得ている。また、本人や家族に食事についてのアンケートをとり、意見をまとめ改善に役立っている。今回のアンケートでも家族からの不満の声はなく、ホームに対して安心している様子が伺えた。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取り組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

